

## 「応援したいという気持ちで、注文数に表れました」



正月返上で生産者が除染した桃は、たくさんの組合員のもとに届けられた。

東海コープ事業連合では、店舗と宅配（8月第1週、2週、5週の計3回）にて、福島県産の桃を取り扱いました。宅配においては、当初の供給計画では、約6万5,000個を販売予定でしたが、結果、それを大幅に上回る約10万7,800個の注文がありました。また、桃を買った組合員から生産者へのメッセージも贈られ、「とてもおいしかった」、「除染作業、本当に大変でしたね」などの言葉が寄せられていました。

**関連記事** 本誌19号にて、東海コープの代表が、桃の生産者を訪問する様子を紹介しています。

## 赤武酒造からのメッセージ 15,994本達成しました！

**関連記事** 本誌17号にて、古館代表のメッセージを紹介しています。

一度はあきらめた酒造りですが、皆さんの応援でもう一度「清酒 浜娘」を醸すことが出来ました。震災から自分の気持ちを決める日まで辛く長い時間でしたが、**昨年**の5月、酒造りを決意してからは多くの皆様とお会いし、これから赤武酒造がどの様になりたいかを話し、聞いて頂きました。すべてを失った私に以前と変わらない、また以前以上のお付き合いをいただき感謝いたします。また、赤武酒造復興計画始動以来、多くの方とお会い出来、励ましと応援の**声**に感謝いたします。大槌町は震災前、15,994名の町民で賑わっておりました。震

災で多くの仲間が犠牲になりました。空高く旅立った親戚、友人、仲間にも、現在、頑張っている仲間にも飲んで頂きたい。この思いより「**浜娘 純米酒 復活**」を15,994本お届けしよう**と**決め活動してきました。そして本日（7月）23日に、15,994本目を出荷する事が叶いました。願いは叶う。そう信じて夢中で進んできました。お買い上げ頂いた皆様へ感謝を込めてご報告いたします。

ありがとうございます。今後も新しい目標に向かって前進し続けます。

赤武酒造（株） 代表 古館秀峰



復活した「清酒 浜娘」を持ち記念撮影する赤武酒造株式会社の皆さん。



震災前の大槌町の人口と同じ「15,994本」の販売を達成した「清酒 浜娘」。



## 「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に入り、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

被災地支援には楽しいものも多い。「楽しくなくちゃ続かない」とは多くの関係者の言葉だ。

続けるために支援側もいろんなアイデアを出す。NPO法人レスキューストックヤードなどが中心となって企画された、震災復興応援企画ミュージカル「ゴーへ」も楽しかった。被災した宮城・七ヶ浜町の子どもたちを中心とする市民劇団NaNa5931による公演だ。「ゴーへ」とは地元漁師さんの言葉で、英語の「Go ahead」（前進）が語源だという。「悲しいときこそゴーへ、夢に向かってゴーへ……」。劇中歌の熱いメッセージに涙があふれた。

そして、9月9日は恒例の「目黒のさんま祭り」。岩手・宮古から獲れたてサンマ6,000尾が届けられた。いわて生協マリンコープDORAの店長が代表を務める復興支援団体「かけあしの会」も参加していた。「かけあしの会」の仲良しさんとも旧交を温め、サンマをお取り寄せ。そして、翌週は、宮城・気仙沼のサンマ。私もかなり楽しんでる。それもいいか、と思った。



目黒のさんま祭りの様子。